

高槻市出土の金属製品（一）

－奈良・平安時代の鉄製品－

宮崎 康雄

高槻市内の各遺跡から出土する奈良・平安時代の鉄製品は、弥生時代の希少性や古墳から出土する豊富な副葬品、さらには同時代の銭貨など他の遺物にくらべてやや地味な存在である。しかしながら、遺跡の性格を考えるうえで重要となる遺物もあることから、本稿では市内から出土した金属製品のうち、奈良・平安時代の鉄製品および鑄・鍛造関連の遺物について集成してみた。

高槻市内に分布する奈良・平安時代の遺跡のうち、9遺跡から鉄製品の出土が知られている（図1）。以下、各種類ごとに概要を記述する。

鏃（1）

嶋上郡衙跡（36-DHKL地区）の井戸から「上郡」と記された土師器甕などと伴出したもので、現存長は10.8cmをはかる。刀部の幅2.6cm、厚さ0.2cm、茎は長さ5.9cmで断面は一辺0.5cmの方形である。

刀子（2～7）

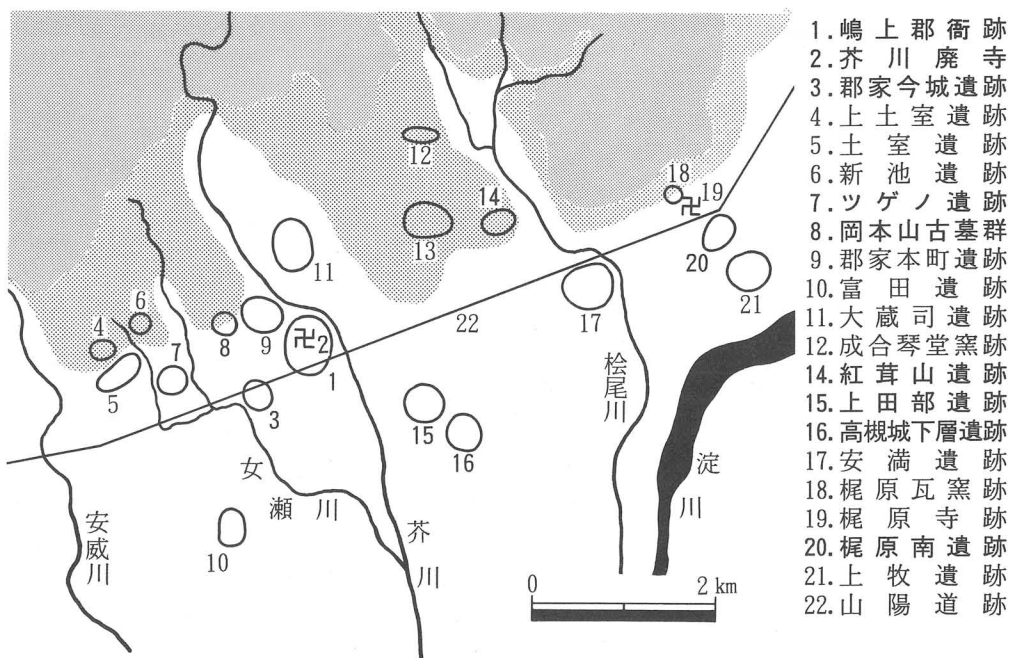


図1 主要な奈良・平安時代の遺跡（太字は鉄製品が出土した遺跡）

遺 跡 名	鍬	刀子	斧	くまで	紡錘車	鍵	釘	鋊	不明品	未製品	羽口	とりべ	鉄滓
嶋上郡衙跡	1	1					1						
芥川廃寺							2						
郡家今城		4	3	1	1		5		6	1	1		有
ツゲノ		1											
岡本山古墳群		1					17						
紅 茸 山							有						
上 田 部								1			4		有
高槻城下層						1							
梶 原 南							1		2		4	3	有

表 1. 鉄製品が出土した遺跡

No.	名称	遺跡名(地区)	遺 構	文献	No.	名称	遺跡名(地区)	遺 構	文献
1	鍬	嶋上郡衙跡(36-DHKL)	井戸	b	16	釘	郡家今城遺跡(東)	8号井戸	b
2	刀子	"(27-L)	包含層	d	17	"	"	12号井戸	"
3	"	郡家今城遺跡(東)	8号井戸	b	18	"	"(89-2)	建物3	b h
4	"	"()	"	"	19	"	"()	ピット	"
5	"	"(89-2)	ピット1	h	20	"	"()	"116	"
6	"	"()	"104	"	21	"	岡本山古墳群(東)	火葬墓①	a
7	"	岡本山古墳群(B区)	木棺墓1	e	-	"	"(C区)	木棺墓1	e
-	"	ツゲノ遺跡(第16調査区)	SK01	g	-	"	"()	木棺墓2	"
8	斧	郡家今城遺跡(東)	整地層	b	-	"	紅茸山遺跡	土壌墓15	b
9	"	"()	"	"	22	"	梶原南遺跡(Dトリチ)	溝15	f
10	"	"(93-2)	土坑1	j	23	鋊	上田部遺跡		b
11	くまで	"(西)	井戸10	-	24	不明品	郡家今城遺跡(東)	B溝	"
12	紡錘車	"(東)	5号井戸	b	25	"	"(89-2)	ピット174	h
13	鍵	高槻城下層	井戸3	i	28	"	"		
-	釘	嶋上郡衙跡(27-L)	包含層	d	30	"	梶原南遺跡(Dトリチ)	溝15	f
14	"	芥川廃寺	"	b	31	未製品	郡家今城遺跡(東)	8号井戸	b
15	"	"	"	"					

表 2. 鉄製品出土一覧

2は嶋上郡衙跡(27-L地区)の奈良・平安時代の包含層から出土したもので、全長10.7cm、刃元の身幅は1.4cm、棟厚0.2cmをはかる。茎は幅0.5cm、厚さ0.2cmをはかり、周縁には木質が依存していた。鐔は直径1.7cm、短径1.1cm、厚さ1mmの鹿角製である。3は現存長8.4cm、最大幅1cm、厚さ0.3cmをはかり、4は現存長8cm、最大幅1cm、厚さ0.2cmである。ともに郡家今城遺跡(東地区)8号井戸より出土している。

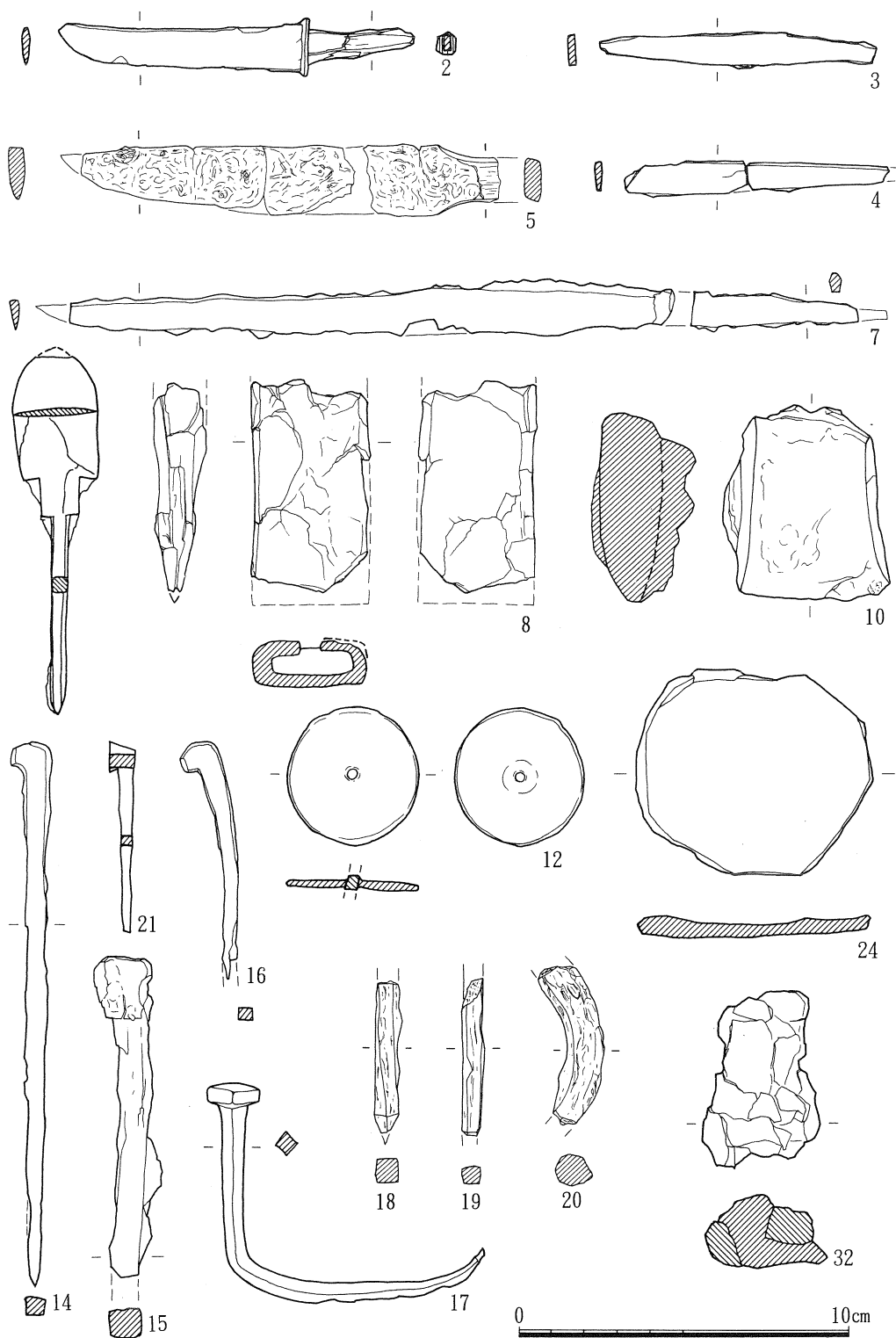


図2 奈良・平安時代の鉄製品 (1) 嶋上郡衙跡 (1・2) 芥川廃寺 (14・15)
 郡家今城遺跡 (3～5, 8・10・11・16～20・24・32)
 岡本山古墓群 (15・21)
 鍬 (1) 刀子 (2～5・7) 斧 (8・10) 紡錘車 (12)
 釘 (14～21) 用途不明品 (24) 未製品 (32)

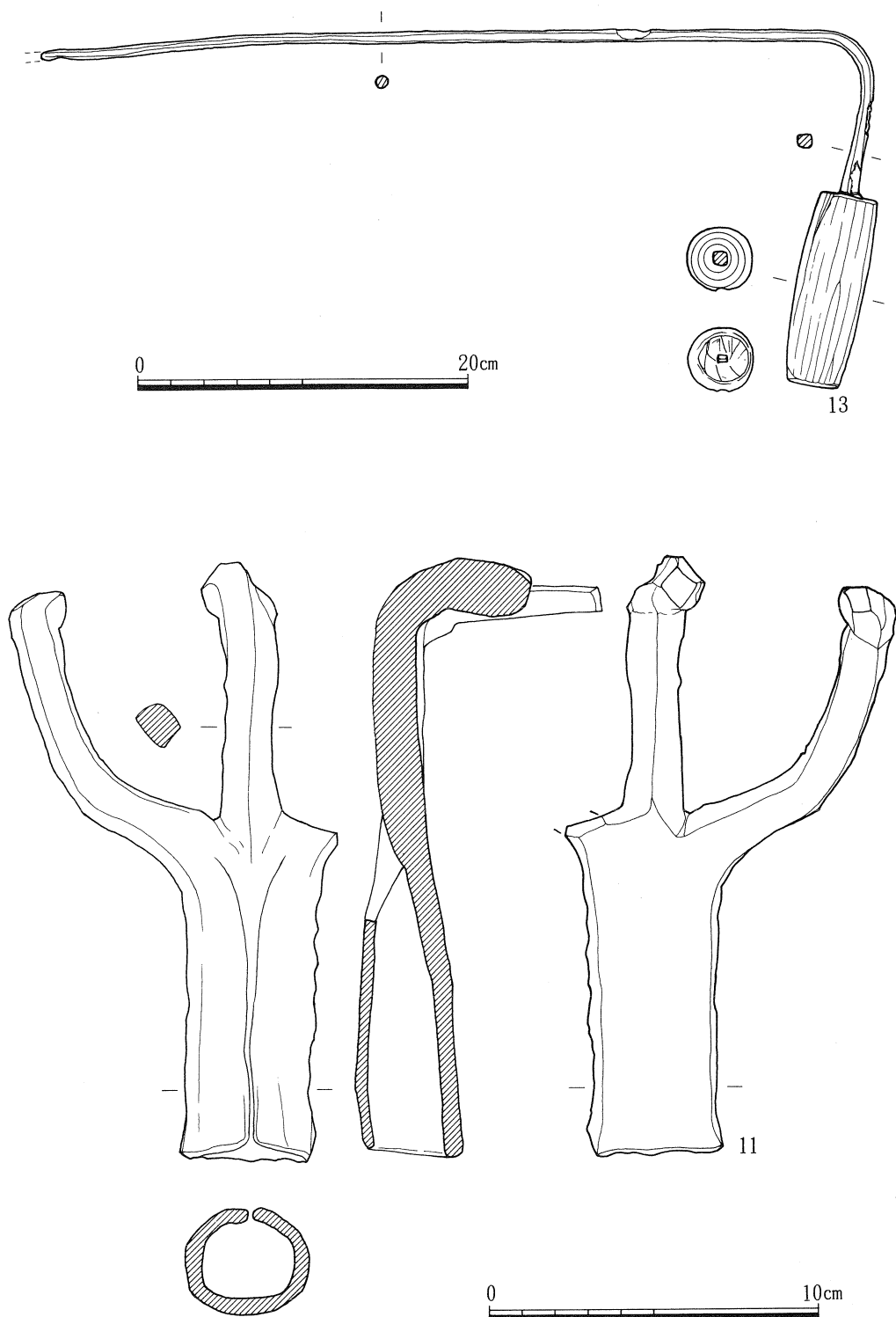


図3 奈良・平安時代の鉄製品(2) 高槻城下層遺跡：鍵(13) 郡家今城遺跡：くまで(11)

5は郡家今城遺跡(89-2地区)の柱穴より2分割した状態で出土したもので、刃元の身幅は2.1cm、棟厚0.5cmをはかる。茎は現存長4cm、幅1.2cm厚さ0.5cmをはかる。

6はかなり腐食が進んでいる。身幅は現存部で約1.7cm、厚さは0.6cmあり、茎は幅1cm、厚さ0.4cmをはかる。7は現存長24cm、幅1.3cm、棟厚3mmをはかり、茎は最大幅9mm、厚さ4mmで端部にむかうほど細くなる。全体に銹化が進んでいる。岡本山古墳群・木棺墓1に副葬されていた。ツゲノ遺跡(16調査区)SK01から出土した刀子は現存長9.5cm、幅1cmあり、木質が依存していた。

斧(8~10)

斧は3点あり、すべて郡家今城遺跡からの出土である。8は手斧で現存長6.2cm、幅3.4cm、厚さ1.5cmをはかる鍛造品である。袋状に加工した装着部の内側には木質が遺存する。東地区8号井戸出土。10は全長5.4cm、刃幅4.7cm、最大厚1.9cmをはかる鍛造品である。93-2地区土坑1からの出土である。

くまで(11)

全長18cm、現存幅10.1cmをはかる鍛造品である。爪はいずれも先端を欠く。現存長は約12cmをはかり、断面は一辺約1cmの方形をなす。現存するのは2本であるが、もとは3本の爪を接着していたようである。装着部は厚さ0.5cmの鉄板を袋状に折り曲げて外径3.8cm、長さ10cmの円筒形とする。郡家今城遺跡(西地区)・井戸10から出土したもので、奈良県平城京跡に出土例がある。

紡錘車(12)

郡家今城遺跡(東地区)・5号井戸から出土したもので直径4cm、厚さ0.25cmの円盤の中心に直径0.3cmの心棒がつく。心棒の両端は欠失する。

鍵(13)

高槻城下層遺跡・井戸3から出土した鍵は、最大径4cm、長さ11.5cmの円柱状をなす木製の柄に現存長51cmの鉄棒を差し込んだものである。鉄棒は柄から約10cmのところでL字状に屈曲する。断面は柄の近くで一辺0.9cmの方形をなし、先端にむかうとともに断面形は直径0.6~0.7cmの円形に変化している。類例は少なく、大阪府はさみ山遺跡と京都府長岡京跡にみられる程度である。

釘(14~20)

最も出土点数が多い。断面は一辺3~9cmの方形をなし、頭部の形状には方頭(17)と折頭(14~16・21・22)の2種類ある。14は芥川廃寺で出土した完形品で全長16.3cm、幅0.6cmをはかる。

未製品 (31)

郡家今城遺跡(東地区) 8号井戸からの出土品で、先に紹介した刀子(3・4)に伴出する。用途不明鉄製品と報告されているが、玉鋼を結合させたような状態やガスが噴出したような気泡がみられることなどから、鉄器の未製品とした。形状からすれば鉄斧の未製品かもしれない。

高槻市内から出土する鉄製品は、墳墓から出土した釘を除けば、まとまって出土した例はない。比較的調査のすすんでいる郡家今城遺跡は、嶋上郡衙跡との位置関係や出土遺物などからこれにかかわる官人層が居住する集落とされている。ここでは刀子が4点と他の遺跡に比べて比較的出土が多いことから、出土鉄製品も遺跡の性格を反映しているといえよう。そのほか特徴的な遺物としては、高槻城下層の鍵があげられる。この鍵が出土した井戸3は横板井籠組という構造をもつうえ、掘形からは和銅開珎1、萬年通寶4、神功開寶9の合計14枚の銭貨が出土するなど、特異な状況を呈している。隣接する上田部遺跡から木簡や「田子」と記された土器が出土していることと合わせ、興味深い資料である。

最後に鋳・鍛造関連遺物について簡単にふれておく。これまでに郡家今城遺跡、上田部遺跡、梶原南遺跡で羽口や鉄滓などの鋳・鍛造に関連する遺物が少量出土している。これらの遺物には焼土坑の埋土やその周辺から出土するものもあり、小規模な鍛造をおこなっていたとかがえられる。ただ、その出土量や遺構の検出状況からすれば、専門的なものとは言い難い。むしろ必要に応じて工人が来て作業をおこなったとみるのが妥当であろう。

参 考 文 献

- | | | |
|-------------------------|-----------|------|
| a) 紅茸山及岡本山東地区の調査 | 高槻市教育委員会 | 1966 |
| b) 嶋上郡衙跡発掘調査概要 | 大阪府教育委員会 | 1971 |
| c) 高槻市史6 考古編 | 高槻市史編纂委員会 | 1973 |
| d) 嶋上郡衙跡発掘調査概要・IV | 大阪府教育委員会 | 1974 |
| e) 昭和56・57・58年度高槻市文化財年報 | 高槻市教育委員会 | 1985 |
| f) 梶原南遺跡発掘調査報告書 | 梶原遺跡調査会 | 1988 |
| g) ツゲノ遺跡発掘調査概要・II | 大阪府教育委員会 | 1988 |
| h) 嶋上郡衙跡他関連遺跡発掘調査概要・14 | 高槻市教育委員会 | 1990 |
| i) 高槻市文化財年報 平成2年度 | 高槻市教育委員会 | 1992 |
| j) 嶋上遺跡群18 | 高槻市教育委員会 | 1994 |